

2022年サッカーイヤー到来！サッカーファンの休養満足度 45.4% サッカーファン層は70代、20・30代は海外趣向が多い結果に ～10万人調査による「スポーツ・サステナビリティ白書 2022」Vol.4～

DPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアを開発、製造、販売する株式会社ベネクス（所在地：神奈川県厚木市、代表取締役：中村 太一、以下、当社）はリカバリー（攻めの休養）ノウハウの提供により、社会のスポーツ寿命の延伸によるスポーツ業界の発展を目指す、スポーツ・サステナビリティ支援事業を実施しています。

そのなかで、一般社団法人日本リカバリー協会（事務局：神奈川県厚木市、代表理事：片野秀樹）、一般社団法人日本疲労学会、神戸リサーチコンプレックス協議会と共同で実施した、全国の男女、20～79歳 10万人（「ココロの体力測定」）調査データから、「スポーツ・サステナビリティ白書」を作成し情報提供をしています。今回は、サッカーファンに注目し、サッカーの人気や休養状況について分析しました。

■スポーツ・サステナビリティ白書とは

全国の男女、20～79歳 10万人（「ココロの体力測定」）調査データから、スポーツ行動頻度、スポーツ観戦・応援頻度、スポーツ各種行動および健康作りの3要素の分析を行い、スポーツと健康増進、健康投資の環境や休養・抗疲労ソリューションの状況をまとめています。また、各スポーツファンを都道府県（もしくは市区町村）のエリアデータで分析を行い、主に、地方自治体やスポーツチームへのマーケティングデータとしてご活用いただいています。

調査データ詳細掲載（リカバリーサイエンスラボ）：<https://recovery-science.jp/data/>

【調査サマリー】

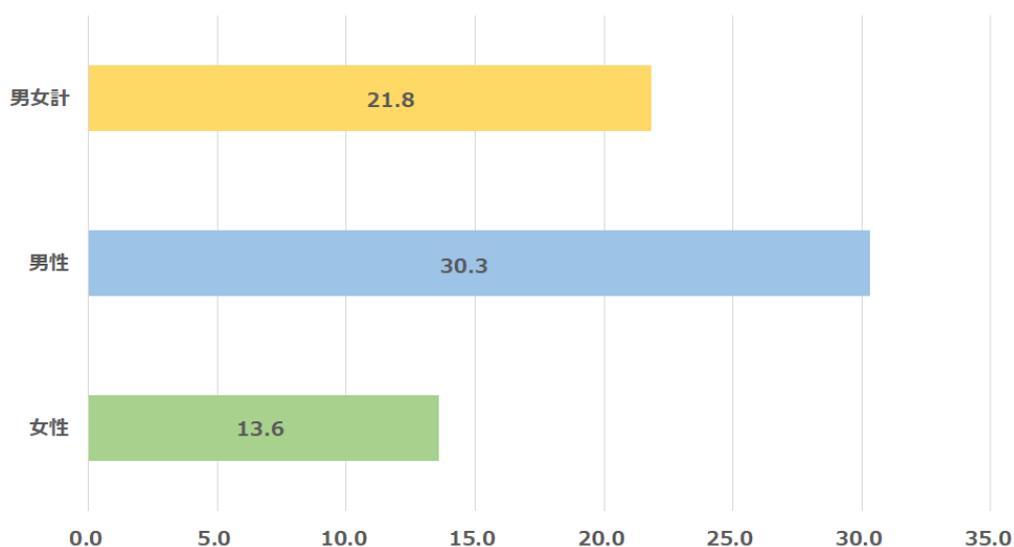
- ◇2022年サッカーイヤー到来！サッカーイベントを活用して、上手に休養時間を過ごそう
- ◇サッカーファンはプロサッカーリーグの男性ファン比率が最も高い
- ◇サッカーファン層は70代、20代30代は海外趣向が多い結果に
- ◇サッカーファンが多い都道府県は？ 1位静岡県、2位山梨県、3位佐賀県
- ◇サッカーファンの休養満足度は45.4%
- ◇プロサッカーリーグ、ファン率が一番高いのは、ガンバ大阪

■2022年サッカーイヤー到来！サッカーイベントを活用して、上手に休養時間を過ごそう

寝不足の状態、疲労を抱えた状態で、充実した生活を送ることはなかなか難しいもの。休養・睡眠は健康を維持していくためにも大切な時間。だからこそベネクスは「休養の質」に着目しています。

2022年は2月にプロサッカーリーグが開幕。今年こそ新型コロナウイルスを気にせず、スタジアムやスポーツバーでファン同士サッカー観戦を楽しみたい！なんといっても今年は、11月にサッカー世界大会も控えているため、サッカーファンには心躍る年になりそう。以前のスポーツファン調査によると、国内スポーツにおけるファンランキングで常にサッカーが上位を占めていました。このたびの調査では、全国のサッカーファンは、全体で21.8%という結果になりました。男女別に見ると、男性30.3%、女性13.6%と男性比率が女性の2倍以上ということがわかりました。

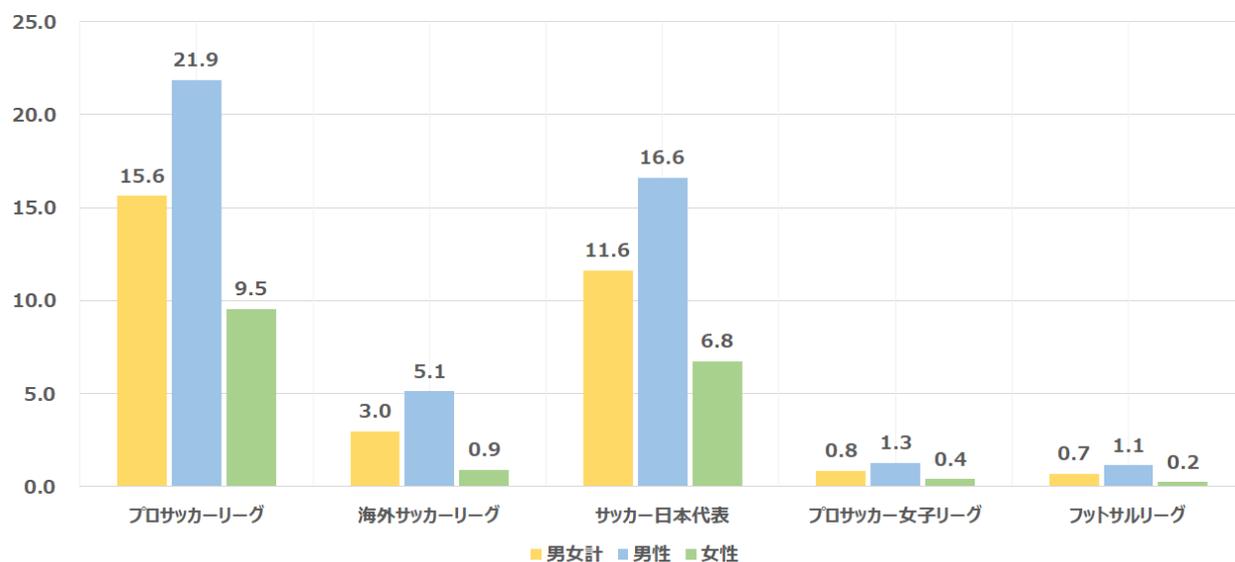
サッカーファン（全国、男女計、男女別） 単位：%



■ サッカーファンはプロサッカーリーグの男性ファン比率が最も高い

サッカーファンの各種（プロサッカーリーグ、海外サッカーリーグ、サッカー日本代表、プロサッカー女子リーグ、フットサルリーグ）においては、どの種別においても男性比率が高く、なかでもプロサッカーリーグは 21.9%と高い割合を占めていました。

サッカーファン（全国、男女計、男女別、種別） 単位：%



■ サッカーファン層は 70 代、20 代 30 代は海外趣向が多い結果に

サッカーファンが一番多い世代は、70 代という結果に。また、各種別のうち国内のプロリーグにおいては 70 代のファンが多く、海外やフットサルにおいては、若年層のファンが多いことがわかりました。

サッカーファン（全国、年代別） 単位：％

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
サッカーファン	18.8	20.0	20.6	20.5	24.1	26.9

サッカーファン（全国、年代別、種別） 単位：％

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
プロサッカーリーグ	13.7	14.0	14.2	14.8	17.2	19.9
海外サッカーリーグ	4.4	4.3	3.6	2.3	2.0	1.5
サッカー日本代表	7.9	10.4	11.5	11.0	14.1	14.0
プロサッカー女子リーグ	0.7	0.8	0.6	0.7	1.0	1.2
フットサルリーグ	1.5	1.3	0.8	0.3	0.2	0.1

■サッカーファンが多い都道府県は？ 1位静岡県、2位山梨県、3位佐賀県

全国都道府県別でサッカーファン率が高い都道府県 1位は、静岡県（静岡県はサッカー行動頻度でも No.1※）。次いで 2位山梨県、3位佐賀県がランクインしました。また、プロサッカーリーグファン率 1位は佐賀県、2位山梨県、3位静岡県となりました。

サッカーファン内のプロサッカーリーグファン率は、1位徳島県、2位佐賀県、3位山梨県となりました。山梨県においては、総合的に比率が高いという結果になりました。

サッカーファン（全国、都道府県別） 単位：％

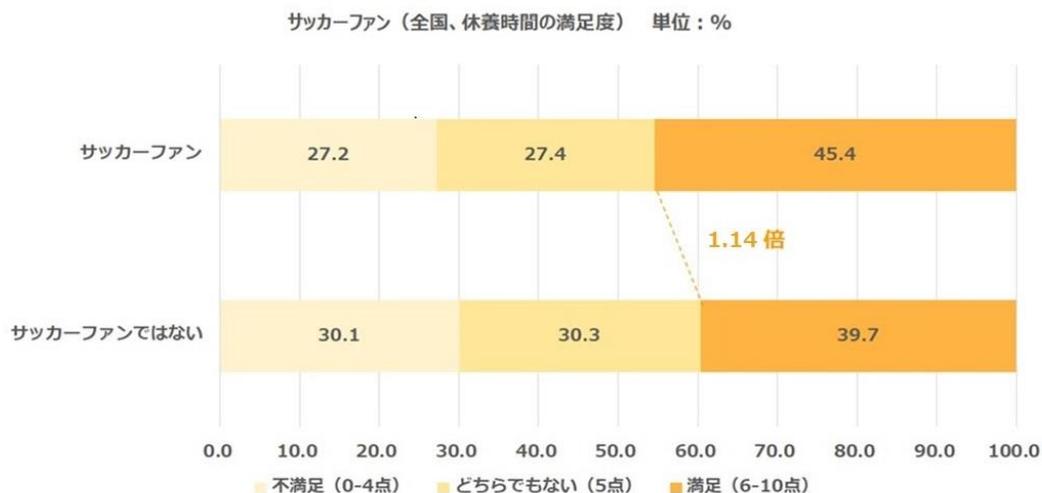
	サッカーファン	プロサッカーリーグファン	サッカーファン内のプロサッカーリーグファン率		サッカーファン	プロサッカーリーグファン	サッカーファン内のプロサッカーリーグファン率
1 北海道	26.2	21.2	80.9	25 滋賀県	16.6	8.8	52.8
2 青森県	17.1	9.4	54.7	26 京都府	20.4	14.3	69.9
3 岩手県	19.2	12.7	66.1	27 大阪府	18.3	12.3	67.2
4 宮城県	23.8	20.3	85.5	28 兵庫県	17.2	12.3	71.8
5 秋田県	24.1	18.3	75.8	29 奈良県	16.0	8.8	54.9
6 山形県	27.0	22.7	83.9	30 和歌山県	15.8	7.1	44.9
7 福島県	21.5	14.3	66.5	31 鳥取県	19.1	14.9	77.7
8 茨城県	26.2	20.6	78.7	32 島根県	16.4	9.6	58.9
9 栃木県	21.5	15.6	72.2	33 岡山県	21.0	15.1	72.0
10 群馬県	17.5	11.5	65.5	34 広島県	26.3	22.0	83.7
11 埼玉県	22.7	15.9	70.3	35 山口県	19.3	15.6	80.4
12 千葉県	19.7	12.1	61.7	36 徳島県	27.9	25.4	91.1
13 東京都	19.2	11.4	59.4	37 香川県	17.3	11.2	64.9
14 神奈川県	23.0	16.1	69.9	38 愛媛県	24.0	17.1	71.2
15 新潟県	26.5	21.1	79.4	39 高知県	15.0	6.3	41.7
16 富山県	20.9	14.9	71.0	40 福岡県	22.1	16.3	73.9
17 石川県	17.8	12.2	68.8	41 佐賀県	31.9	28.0	87.8
18 福井県	13.3	5.8	43.5	42 長崎県	30.1	25.4	84.4
19 山梨県	32.0	27.9	87.3	43 熊本県	20.6	14.3	69.5
20 長野県	24.5	19.0	77.4	44 大分県	30.8	26.0	84.2
21 岐阜県	20.3	14.2	69.8	45 宮崎県	23.9	16.5	69.1
22 静岡県	32.9	27.2	82.7	46 鹿児島県	26.3	16.6	63.3
23 愛知県	22.0	16.4	74.5	47 沖縄県	23.8	18.6	78.3
24 三重県	18.1	11.8	65.3				

※関連資料：『70代でサッカーをする人の42.8%が元気な人 アクティブな秘訣は、質の良い“睡眠時間と休養行動” ～10万人調査による「スポーツ・サステナビリティ白書 2022」Vol.3～』 https://recovery-science.jp/date_2022_vol-3/

■ サッカーファンの休養満足度は45.4%

サッカーファンの休養満足度はそうでない人に比べ、1.14倍という結果に。また種別で見ると唯一、45%を割ったのが海外サッカーリーグでしたが、海外サッカーは時差により放映時間が深夜や早朝などになり、その要因で比率が下がっていることが推測されます。

サッカーが盛り上がりを見せる今年は特に、サッカー観戦で自身の休養時間を充実させて、しっかりと心身ともに満足させたいものです。



■ プロサッカーリーグ、ファン率が一番高いのは、ガンバ大阪

プロサッカーリーグのファン率は僅差ではあるものの、1位ガンバ大阪 1.39%、2位名古屋グランパス 1.34%、3位浦和レッズ 1.30%という結果でした。

プロサッカーリーグ各チームファン率（全国） 単位：%

	ファン率		ファン率		ファン率			
1	ガンバ大阪	1.39	25	東京ヴェルディ	0.34	49	ザスパクサツ群馬	0.19
2	名古屋グランパス	1.34	26	ロアッソ熊本	0.32	50	ツエーゲン金沢	0.18
3	浦和レッズ	1.30	27	FC岐阜	0.32	51	いわてグルージャ盛岡	0.18
4	鹿島アントラーズ	1.25	28	モンテディオ山形	0.32	52	アスルクラロ沼津	0.17
5	北海道コンサドーレ札幌	1.12	29	ヴァンフォーレ甲府	0.31	53	藤枝MYFC	0.17
6	川崎フロンターレ	1.05	30	湘南ベルマーレ	0.31	54	ヴァンラーレ八戸	0.15
7	ヴィッセル神戸	0.98	31	ファジアーノ岡山	0.28	55	FC IMABARI	0.15
8	横浜F・マリノス	0.91	32	FC今治	0.27	56	SC相模原	0.14
9	ジュビロ磐田	0.86	33	徳島ヴォルティス	0.27	57	FC町田ゼルビア	0.14
10	サンフレッチェ広島	0.85	34	大宮アルディージャ	0.27	58	Y.S.C.C.横浜	0.12
11	セレッソ大阪	0.79	35	ギラヴァンツ北九州	0.27			
12	清水エスパルス	0.74	36	FC琉球	0.27			
13	ヘラルタ仙台	0.62	37	レノファ山口FC	0.26			
14	アビスパ福岡	0.57	38	栃木SC	0.26			
15	FC東京	0.54	39	愛媛FC	0.25			
16	サガン鳥栖	0.52	40	テゲバジャーロ宮崎	0.25			
17	アルビレックス新潟	0.51	41	ブラウブリッツ秋田	0.24			
18	柏レイソル	0.46	42	ジェフユナイテッド千葉	0.24			
19	大分トリニータ	0.43	43	水戸ホーリーホック	0.24			
20	V・ファーレン長崎	0.42	44	福島ユナイテッドFC	0.23			
21	松本山雅FC	0.41	45	カターレ富山	0.22			
22	京都サンガF.C.	0.40	46	カマタマーレ讃岐	0.22			
23	横浜FC	0.38	47	ガイナレ鳥取	0.21			
24	鹿児島ユナイテッドFC	0.36	48	AC長野パルセイロ	0.20			

【調査概要】

調査名：「ココロの体力測定 2021」

期間：2021年11月15日～12月20日

SCR 調査対象：全国の20～79歳の10万人（男女各5万人）

本調査対象：1248人（男女各624人）

方法：インターネット調査

SCR 調査項目：10問、本調査項目：30問

※サンプル数は男女各5万人で、各都道府県500サンプル以上を確保し、その後人口比率（都道府県、年代、有職割合）でウエイト修正した。

※日本のサッカーファンの抽出：プロサッカーチームファン、海外サッカーチーム、サッカー日本代表、プロサッカー女子チーム、フットサルリーグのいずれかのチームを応援していると回答

※プロサッカーチームファンの抽出：2021年11月現在の全58チームのいずれかのチームを応援していると回答

【ベネクスについて】

健康のための3大要素「運動」「栄養」「休養」の中で、パフォーマンスを向上させるために必要な「休養」に着目。休養時専用ウェアの開発、製造、販売を行っています。創業は「床ずれ予防マットレス」を開発、販売する介護用品メーカーとしてスタート。現在は、ケアという発想に基づいたリハビリに関わる商品開発を行っています。

「人間が本来持っている自己回復力を最大限に発揮させること」をコンセプトに、東海大学、神奈川県、当社との産学公連携により開発したDPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアは、エビデンス（科学的根拠）の取得や安全性を重視した開発を行い、2010年2月の発売以降、疲労回復や安眠のサポートを目的として日本代表選手らスポーツ関係者はじめ多くの方に愛用されています。現在は、豊富な商品展開を行い、全国の主要百貨店やオンラインショップで販売。これまでにシリーズ累計135万着（2022年1月末時点）の販売実績を記録するヒット商品となっています。

DPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアは、2013年にドイツで行われた世界最大のスポーツ用品見本市「ISPO」で日本企業初の金賞を受賞。また、2018年9月には、県民の未病改善の促進及び未病産業の市場拡大に向け、未病の見える化や未病の改善に貢献できる信頼性のある優れた商品・サービスを認定する神奈川県の「ME-BYO BRAND（未病ブランド）」にも認定されました。その翌年2019年には、日本健康医療学会から健康医療に役立っている製品を開発、生産、販売する会社、団体等に向けて贈られる「第7回健康医療アワード」を受賞しています。

〈DPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアの評価〉

スポーツ：2013年「ISPO」金賞受賞

社会：2018年「ME-BYO BRAND（未病ブランド）」認定

健康：2019年「健康医療アワード」受賞

■ベネクス「休養時専用ウェア」を支える2つのメカニズム

1. 特殊繊維「PHT（Platinum Harmonized Technology）」

当社独自の先端テクノロジーを駆使し、ナノプラチナなどの鉱物、DPV576を繊維1本1本に練りこんで開発したポリエステルの特特殊繊維「PHT」。この「PHT」を使用して作った「休養時専用ウェア」は、休養時の体を優しく包み込み、体力が回復しやすい環境を整え、心身の“休養”をサポートします。

2. 休養時の着心地のよさを追求した仕様とデザイン

体を締め付けないノンコンプレッションデザインでゆったりとした着心地を実現。素材や縫製、カットングにもこだわり、睡眠中、家でのリラックス時やスポーツ直後、移動中など、あらゆる休養シーンにおいて、ゆったりとした着心地で体に余計なストレスを感じさせない心地よさを追及しています。

【株式会社ベネクス 概要】

法人名： 株式会社ベネクス

代表： 代表取締役 中村 太一

所在地： 〒243-0018 神奈川県厚木市中町 4-4-13 浅岡ビル 4階

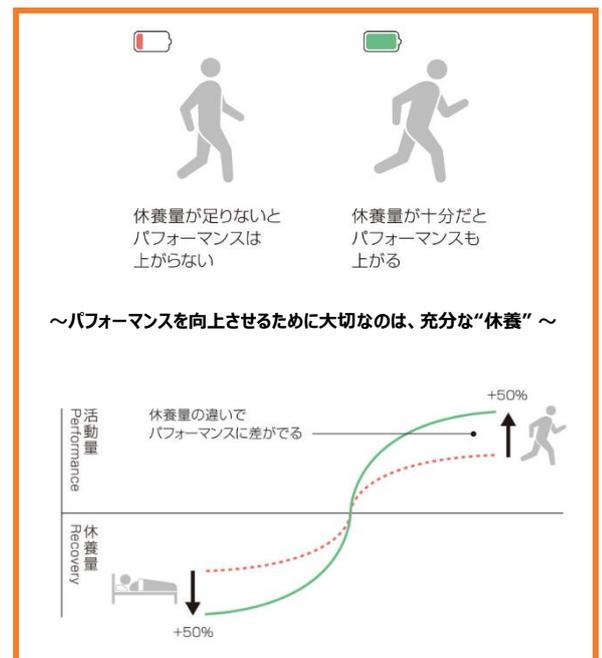
電話： 046-200-9288

設立： 2005年9月30日

事業内容： 「休養時専用ウェア（PHT 繊維使用）」の開発、製造、販売

ホームページ： <https://www.venex-j.co.jp/>

リハビリサイエンスラボ（調査データ詳細掲載）： <https://recovery-science.jp/>



【日本リカバリー協会 概要】

名称： 一般社団法人 日本リカバリー協会
所在地： 神奈川県厚木市中町 4-4-13 浅岡ビル 4F
会長： 渡辺恭良（理化学研究所生命機能科学研究センター チームリーダー、大阪市立大学大学院医学研究科名誉教授）
副会長： 水野敬（理化学研究所生命機能科学研究センター ユニットリーダー、大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長）
顧問： 大谷泰夫（神奈川県立保健福祉大学 理事長、元内閣官房参与）
杉田正明（日本体育大学体育学部 教授、日本陸連 科学委員会委員長）
松木秀明（東海大学 名誉教授、健康評価施設査定機構 理事）
代表理事： 片野秀樹 博士（医学）（日本未病総合研究所講師、Genki Vital Academy 顧問）
提携： ゲンキ・バイタルアカデミー（スイス）
公式 HP： <https://www.recovery.or.jp/>
「毎日をガンバルために、リカバル習慣を。」 <https://recover-bar.jp/>

【神戸リサーチコンプレックス協議会 概要】

神戸リサーチコンプレックス協議会は、「個別健康の最大化」を目指した「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」を継承する組織として設立しました。協議会では、神戸医療産業都市という医療産業創出基盤を活かし、「ヘルスケア分野のエコシステムを神戸に創る」ことを目的に、ヘルスケア産業が創出される土壌を醸成し、その成果を広く社会に還元します。

神戸リサーチコンプレックス協議会では、「健康関数」「ヘルスケアデータ Hub」事業をコア事業に据えてヘルスケア産業を振興し、またコア事業を下支えする「事業化支援」「シーズ創出」「人材育成」といったプラットフォームを発展させるなど、ヘルスケアのエコシステムの創出へ向けた取り組みを行っていきます。

事務局：兵庫県、神戸市

参画機関：2 自治体、10 大学・研究機関、62 企業等（2021 年 7 月 1 日現在）

URL：<https://koberc.jp/>

【一般社団法人日本疲労学会 概要】

「一般社団法人日本疲労学会（Japanese Society of Fatigue Science）」は、慢性疲労症候群（CFS）研究会、疲労研究会、文部科学省疲労研究班などが母体となり、疲労全般に関する研究発表、知識の交換の場として平成 17 年に発足いたしました。当学会では、生理的疲労、病的疲労、慢性疲労、産業疲労などの疲労全般を科学的に扱い、学術の発展や医療の質の向上に寄与することを目的と致しています。

理事長 渡辺恭良（理化学研究所生命機能科学研究センター チームリーダー、大阪市立大学 名誉教授）

URL：<http://www.hirougakkai.com/>

第 18 回日本疲労学会総会・学術集

<https://www2.aeplan.co.jp/jsfs2022/outline.html>